

第6回 府中市総合計画審議会会議録（要旨）

開催日時 令和3年5月28日（金） 午後3時～午後4時17分

開催場所 府中市役所西庁舎3階第2～4委員会室

出席委員 27名（50音順）

赤野秀二委員、市川耕作委員、伊藤敏春委員、上野和憲委員、
榎本久美子委員、奥村さち子委員、金子 憲委員、小島壽一郎委員、
古森寛樹委員、小山有彦委員、佐藤新悟委員、志水清隆委員、
長崎益治委員、中島正裕委員、中村洋子委員、奈良崎久和委員、
新島 香委員、にしみや幸一委員、濱中重美委員、平田嘉史委員、
藤江昌嗣会長、前川浩子委員、増山あすか委員、森田直行委員、
吉田征予委員、吉田ゆり子委員、和田光一副会長

欠席委員 3名（50音順）

落合法子委員、峯 佳毅委員、森本 憲委員

出席説明員等

石橋政策総務部長、大井政策課長、高橋政策課長補佐、
岡村政策課副主幹兼行政経営担当副主幹兼総合計画担当副主幹、
大木政策課主査、橋本政策課主任、桜田政策課月額制会計年度任用職員、
三菱UFJリサーチ&コンサルティング（株）大塚氏、土方氏、渡部氏
傍聴者 なし

議事日程

- 1 開会
- 2 確認事項
第5回府中市総合計画審議会会議録（要旨）について
- 3 審議事項
 - (1) 基本構想（案）について
 - (2) 重点プロジェクト（案）について
- 4 その他

会議録（要旨）

藤江会長 ただいまから、第6回府中市総合計画審議会をはじめます。事務局から本日の委員の出席状況を報告してください。

事務局 出席状況を報告します。
（出席状況及び会議有効成立の報告）

藤江会長 議題に入る前に、本日付で本審議会委員を任命された方がいらっしゃいますので、自己紹介をお願いします。今年度より新たに府中市副市長に就任された古森寛樹委員です。

（古森委員の自己紹介）

藤江会長 よろしくお願いいたします。次に、事務局から本日の傍聴希望の状況を報告してください。

事務局 本日、傍聴希望者はいません。

藤江会長 次に、事務局から本日の配布資料を説明してください。

事務局 資料は、本日机上に配布している5点と事前に郵送した4点となります。
（配布資料の確認）

確認事項

第5回府中市総合計画審議会会議録（要旨）について

藤江会長 前回の第5回審議会の会議録が資料6-1として事前に郵送されましたが、指定された期日までに修正等の連絡はなかったと事務局から報告を受けています。最終確認になりますが、修正等について意見はありますか。

（挙手及び発言なし）

藤江会長 それでは、第5回審議会会議録は資料のとおりの内容で確定としますので、事務局は速やかに公開の手続きを行ってください。

審議事項

(1) 基本構想(案)について

藤江会長 前回の審議会で活発な議論が行われ、多くの意見が出ましたが、それを基に起草委員会で議論を重ねていただきましたので、まずは、起草委員会委員長である和田副会長から説明をお願いします。

和田副会長 それでは、起草委員会の開催状況について報告します。5月17日に第4回起草委員会を開催し、基本構想(案)を検討しました。基本構想(案)について資料6-2では全部で23件の意見等がありますが、私からは起草委員会で特に多くの意見が出たコロナ関連の対応について説明します。

前回の審議会では、コロナなど今起きている大きな変化に柔軟に対応していくことを記載すべき、あるいはコロナの影響を受けた上でのこれからのまちづくりの方向性を示すべきといった意見が複数出ていました。対応として、資料6-3の1ページの第1章の「1 まちづくりの基本理念」の最後の網かけ部分のとおり、「また、時代や環境の大きな変化にも柔軟に対応し、お互いが連携・協力して地域の課題解決に取り組む、協働によるまちづくりを推進していきます。」と追記しました。今後、計画期間である8年間の中で、コロナに限らず大きな変化が起こり得ると思いますが、そうした事態にも柔軟に対応していくという姿勢について、理念として基本構想に記載することとしたものです。なお、起草委員会では「柔軟」のほかに、「しなやか」「順応」といった表現も出ましたが、市民に分かりやすい言葉選びをするという考えのもと、「柔軟に」という表現を使用しています。

次に6-2の1ページの右側の対応欄の「基本計画」の部分です。コロナの影響を受けたことを踏まえ、これからのまちづくりの方向性としては、基本計画に次の5つの視点を踏まえた内容を記載することを検討していきたいと思います。具体的には「大きく影響を受けた市民生活に寄り添う」、「テレワークなど新しい日常に対応」、「職住近接に適した環境整備」、「災害時の地域の担い手として地域住民による共助」、「都心へのアクセスの良さと、豊かな自然を兼備している環境を活用」の5点となりますが、今回の経験をまちづくりに活かし、危機を乗り越えていくための視点として、基本計画にこれらの要素をまとめた文章を盛り込むことを検討します。

それ以外の点について、事務局から資料に沿って説明してください。

事務局 資料6 - 2と資料6 - 3に基づき説明します。
(基本構想(案)について説明)

藤江会長 和田副会長からの説明と資料6 - 2、6 - 3に基づいた事務局からの説明がありました。確認したい点や意見等がありますか。

前川委員 まちづくりの大綱の市の姿勢を示した部分に、「市は、協働の機会や場の提供に係る情報提供をするなど、各主体を協働へとつなぐための取組に努めることで、協働によるまちづくりを進めます。」とあるが、これが市としての協働に対する考え方なのか。行政が協働の主体の1つであるという姿勢が見えにくいので、市が行政として協働に主体的にいかに取り組むべきか、ということを書き入れるべきだと思う。

藤江会長 具体的に書き入れる文章は、どのような表現が良いと思いますか。

前川委員 確かに市民一人ひとりがまちづくりの主役なのだが、その市民とともに市も協働を作り上げていくという強い意志をここで示すことができると、府中市の協働というものがさらに進んでいくのではないかと思う。協働における行政の役割が情報提供などに固定化されることをとても危惧している。

和田副会長 行政が市民とともに一体となって協働の取組を進めていく意志を表す趣旨の文言を入れることを検討したいと思います。

藤江会長 私も副会長と同じ考えで、例えば現在の文章表現を活かすとする、最後の「協働によるまちづくりを進めます。」の前に「市民とともに」という言葉を加えて、「『市民とともに』協働によるまちづくりを進めます。」とする表現もあろうかと思います。

奈良崎委員 原文を活かし「努めることで」とすると市が行うべきこととも捉えられるので、「努め、」に留め、会長のご発言のとおり、「市民とともに主体的に協働によるまちづくりを進めます。」と続ける表現が良いと思う。

藤江会長 奈良崎委員のご提案で、ここに書いてある文章を極力活かすという趣旨でまとめると、「そして、市は、協働の機会や場の提供に係る情報提供をするなど、各主体を協働へとつなぐための取組に努め、市民とともに協働によるまちづくりを進めます。」となり、前川委員の発言の趣旨にも沿った市民と市の両方が主役というような意味合いも出てくると思います。それでは、この内容を基本として、基本構想（案）を決定したいと思いますが、よろしいでしょうか。

（異議なし）

また、資料6 - 3の表紙に「第7次府中市総合計画」とあり、この会議では初めて「第7次」という表現を使用しましたが、現在、私たちが審議している計画を「第7次府中市総合計画」の名称で決定したいと思いますが、よろしいでしょうか。

（異議なし）

それでは、ご承認をいただきましたので、「基本構想（案）」と「第7次府中市総合計画」という名称について決定します。

（2）重点プロジェクト（案）について

藤江会長 次に、審議事項の2「重点プロジェクト（案）について」、起草委員長の和田副会長からご説明をいただきたいと思います。

和田副会長 起草委員会では、この重点プロジェクト（案）について、3本柱で構成することや、本市の第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略としても位置づけるといった設定の考え方や方向性について確認を行いました。では、事務局から資料の説明をしてください。

事務局 資料6 - 4に基づき説明します。
（重点プロジェクト（案）について説明）

藤江会長 説明がありましたが、意見や質問はありますか。

にしみや委員 目標と取組がある程度具体的な形で設定されているが、例えば、市の中でこういうテーマについて重点的に取り組みたいと

か、各課から上がってきたものを整理しているとか、どういう背景や根拠で目標が設定されているのかを知りたい。

事務局 重点プロジェクトの内容の設定についてですが、これまでの第6次総合計画における施策展開の経過を踏まえたもののほか、今後、財政的に経費がかかり重点的に取り組んでいくべきもの、社会潮流や社会動向なども踏まえてこれからの時代に必要となるもの、市民意識調査などで重要度が高いとされているものなどを市がピックアップして、目標と取組という形で設定したものであり、所管課から意見が上がってきているものではありません。

にしみや委員 状況は理解した。実際に取り上げられるかどうかは別途検討してほしいが、この中の取組に、シティプロモーションの考え方を入れてもらいたい。シティプロモーションは観光などで外に向けて発信するものだとの誤解されているが、本質的にはそうではなく、まず市民が自分たちのまちの価値に気づいて愛着を持ち、自ら主体的に外に向けて価値や情報を発信する試みである。特にコロナのことを考えたときに、例えば観光を1つとっても、外から呼び寄せただけではなくて、市民が自分たちのまちのいろいろなところに行ってその価値に気づくとか、身近なところでレクリエーションを楽しむとか、そうしたことも、これから仕掛けとして必要になってくると思う。府中市は今までこの点が弱かったのではないか。

シティプロモーションの考え方を入れるとすれば、一番下の目標の「地域資源を活かしたにぎわいの創出」の中になるかと思う。コロナを契機にして、府中のポテンシャルを高めるきっかけとして、必要だと思う。よろしく検討していただきたい。

藤江会長 起草委員会が作った案に審議会でまず意見を出して、また戻すという当初のやり方ではなくて、審議会で活発な意見が毎回出ていますので、そういった意見を踏まえた上で起草委員会の場で改めて考えていくという流れにしていますので、ぜひお気づきの点や意見、提案があれば出していただきたいと思います。

和田副会長 起草委員会でも、自分たちのまち「府中」の価値はどこにあるのか、観光客を呼び込むことも大切ではあるが、住みやすい落ち着いたまちということを推し出した方がよいといった論議が出ていたこ

とを申し添えます。

中島委員 まち・ひと・しごと創生総合戦略との関係だが、重点プロジェクトが第2期戦略として位置付けられるとのことだが、現在、まち・ひと・しごとでは毎年KPIによる評価を行って進捗状況を検証している。まち・ひと・しごとを兼ねることになる重点プロジェクトでも、KPIを作って入れ込むということになっていくのか、確認したい。

事務局 重点プロジェクトのマネジメント、KPIや数値目標の設定についてですが、数値目標はやはり地方版総合戦略としての要素を備えるために必要なものと認識していますので、重点プロジェクトの中にそういった目標を掲げていく予定で考えています。

また、評価をどのように行っていくのかは、今後、全体のマネジメントのところでも改めて検討したいと考えていますが、現状、まち・ひと・しごとでは外部評価で附属機関を立ち上げて、12名の委員の方に毎年評価いただいております。また、この附属機関から出た答申の中にも、ぜひ今までの評価の仕方を活かしてほしいという内容が組み込まれていますので、こちらも踏まえながら今後検討していきたいと考えています。

長崎委員 原案に特に異論はないが、危機管理対策の推進のところで「感染症と災害対策」という1つの項目で表しているが、重点プロジェクトにするのであれば、しっかりと分けた形でやるほうがいい。

もう1点、数値目標の設定だが、数値で表す評価をするには少し難しい項目も入っていると感じる。特に最後の部分、スポーツタウンの推進や文化・芸術、これを数字で表すのは難しいのではないかと。何々を作ったからオーケーというような形になるので、プロジェクトを進めるに当たっては、もう少し柔軟な評価の仕方や対応を考えなくてはいけないと感じた。

前川委員 この取組をやることによって目標を達成していくという考えか。代表的な取組がこの重点事業として表されていくのか。

事務局 現在書かれている取組は代表的な取組であって、今後、もう少し精査して審議会のご意見などを踏まえ、プロジェクトとして完成させていきたいと考えています。

前川委員 形としては第6次の重点プロジェクトのこの紺色の重点事業の下の枠に、この取組というのが入っていくようなイメージということか。

事務局 主要な取組に施策や事業を掲げていくイメージになります。事業については、あまりたくさん網羅的に入れ込むつもりはありません。あくまで、目標達成に資する中心的なものという考え方の中で、該当するものがあればこの中に加えていきたいと考えています。

前川委員 理解した。何でも入れたら重点にならないということは分かった。この重点プロジェクト(案)を見ると、ジェンダーという観点がない。府中市は男女共同参画と言いながらジェンダーに関して弱いまちだと思う。昨年12月に出された内閣府の男女共同参画推進計画は危機感にあふれたものなので、これを読んで、府中市においてジェンダーとは何なのか、男女共同参画また性差別とは何かという記述がどこかにあるような重点プロジェクトであってほしいと願っている。

それと、先ほどシティプロモーションの話があったが、今回この取組の中に中心市街地の活性化、府中基地跡地留保地、またスポーツタウンもそうかと思うが、こういうことをやっていくときにエリアマネジメントという考え方を進めていくべきだと思う。そういう記述がどこかにあったほうが、重点プロジェクトとして厚みを持つのではないか。エリアマネジメントは市民、民間企業、行政が一体となってまちづくりを進めていく手法であり、府中のまちがさらに力強く成長していくための1つの手法ではないかと思う。

藤江会長 貴重な意見として受け止めたいと思います。

藤江会長 基本構想(案)の中では、基本目標として保健・福祉から都市基盤・産業までの分野に分かれています。今回のプロジェクトを見ると、例えば「地域でつながり安心して暮らせるまちづくり」というのは、確かにインフラ的な部分もありますし、建物とかそういったハード面の安全と安心、あるいは感染症というものについても関係すると思います。また、「活気に満ちた交流が盛んなまちづくり」ということとも深く関係していると思います。

第6次計画の重点プロジェクトでは、最初は「市民が主役のまちづく

り」で、これは協働のことを意識した部分もあったと思うのですが、この辺は今回の「未来を担うひとを育むまちづくり」というプロジェクトとも関わると思います。私たちは幼児教育から始まって小中高などで人づくりが終わってしまう感じを持ってしまいますが、やはり地域に生きて、地域に根ざす子どもたちを大人として育てていきたいということで、そのような幅の広がりをもった具体的なプランが必要ではないかと思えます。

また、プロジェクト名も、4つを3つにしているので、工夫がいるのかもしれませんが。やはりお互いつながっているものだということを改めて認識している私たちにとっては、縦割りというか、分けてしまうことで関連が見えにくくなってしまわないでしょうか。悪口ではありませんが、行政組織はどうしても縦割りの組織なので、なかなか横断的ということがしにくいと思うのですが、そこを超えてやはり対応していかないといけないということに気づいた部分もあるかもしれません。この後の議論の中で、そのようなつながりを意識した形で作っていくことはあるのではないかともしました。

そのほか、委員の皆様いかがでしょうか。

(挙手・発言なし)

藤江会長 ご意見がないということであれば、資料6 - 4で提案された内容を原案として本日出された意見も踏まえて、今後検討していきたいと思えます。

その他

藤江会長 委員の皆さんから何かありますか。特になければ、私から今後のスケジュールについて説明します。当審議会は、第7回は7月28日(水)、第8回は7月30日(金)の2回で基本計画を、第9回は答申案を審議する回として9月9日(木)、第10回は市長への答申で10月開催を予定しています。起草委員会は、7月1日(木)、7月2日(金)、また、8月下旬に1回の開催を予定しています。

次回以降の審議会では、基本計画を審議する予定です。基本計画は項目も分量も非常に多く、また、最終回の答申まで審議会の回数も限られているので、十分な議論を行うには審議の効率化が必要になってきます。そのために審議会当日に初めて資料に関する意見をいただくのではなく、事前に資料を委員の皆様方に配布して確認していただき、審議会

前に事務局へ意見を提出する形で進めたいと思います。そのご意見を基に起草委員会で細かくチェックし、事前に論点を明確にした上で、本日のようにそれを反映したものを審議会で集中的に審議する形にしたいと思います。

スケジュールが非常にタイトで申し訳ありませんが、間に起草委員会を挟むため、事前にご意見をいただくのもできるだけ早くお願いすることになります。このような日程案を提案したいと思いますが、よろしいでしょうか。

(挙手、発言なし)

藤江会長 それではこのスケジュールで、効率的な審議、効果的な審議を行いたいと思います。基本計画の確認に当たっては、「てにをは」などの細かな部分もありますし、文章の骨組みや重要な視点、指標なども幅広く見ていただいて、ご意見をお願いします。

それでは、事務局からその他の連絡をお願いします。

事務局 事務局から4点連絡します。

基本計画における各施策の素案の確認のスケジュールについて(資料発送は6月1日の予定、意見提出は6月14日締切(所管課と対応を調整の後、7月1日、2日開催の起草委員会に提出。)

基本計画の行財政運営分野について(施策の中に行財政改革の要素を含めており、別途個別計画を策定しなくとも取組を推進できる内容としている。資料5-4で示した「重点的な取組」の項目名を「主要な取組」に変更。)

今後の開催日程について(第7回7月28日(水)午後3時から、第8回7月30日(金)午後2時から、会場はともに第2~第4委員会室。第9回9月9日(木)の午後(開始時刻未定)。)

参考資料について(「府中市グループミーティングについて」に基づき、グループミーティングの開催結果を報告。)

藤江会長 それでは、次回は7月28日、午後3時から開催することとし、本日はこれで散会とします。

以上